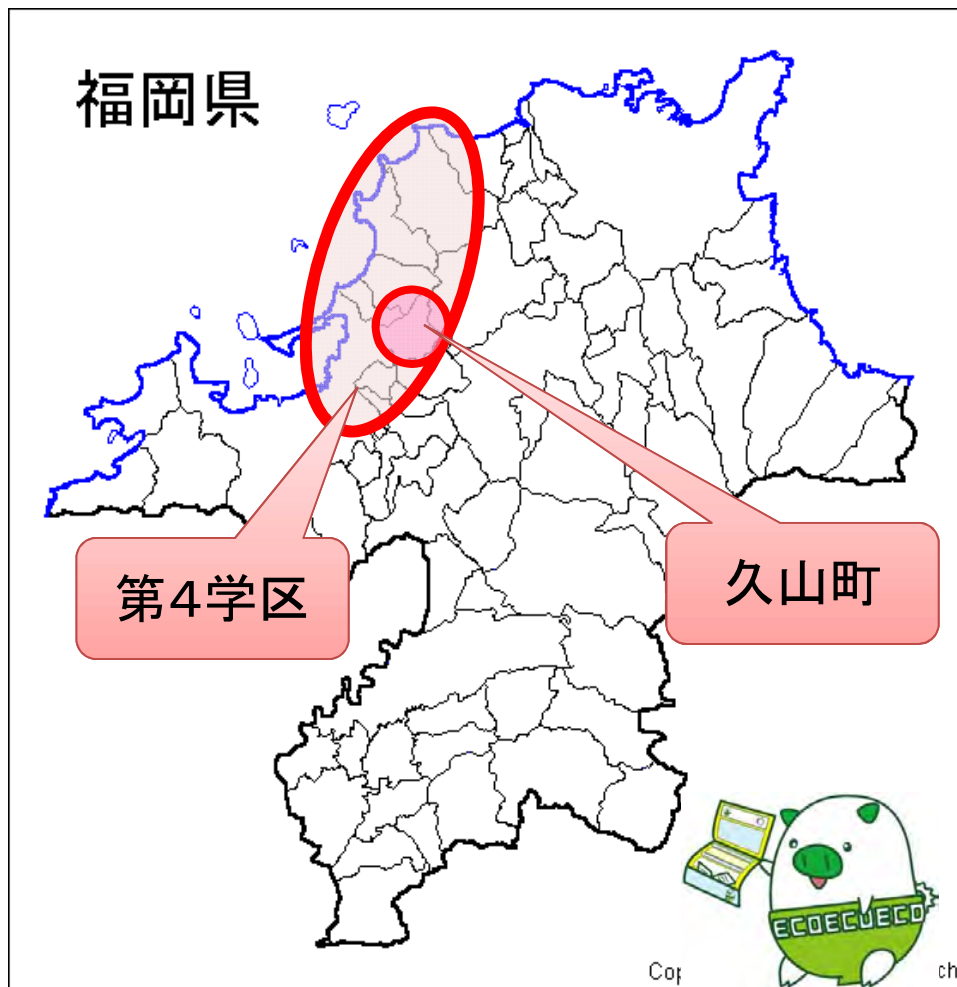


# 系統性のある支援研究事業の取組



学校種	学校数	児童生徒数
幼稚園	460園	64,151人
小学校	753校	276,597人
中学校	370校	139,161人
高等学校	202校	135,332人
中等教育学校	2校	698人
特別支援学校	38校	5,675人

- 平成28年5月1日現在
- 政令市立・私立学校を含む。

福岡県教育庁教育振興部 義教育課特別支援教育室 指導主事 牛島 玲  
 久山町教育委員会 教育課 指導主事 高武 龍彦  
 福岡県教育庁教育振興部 高校教育課 指導主事 矢津田 としえ

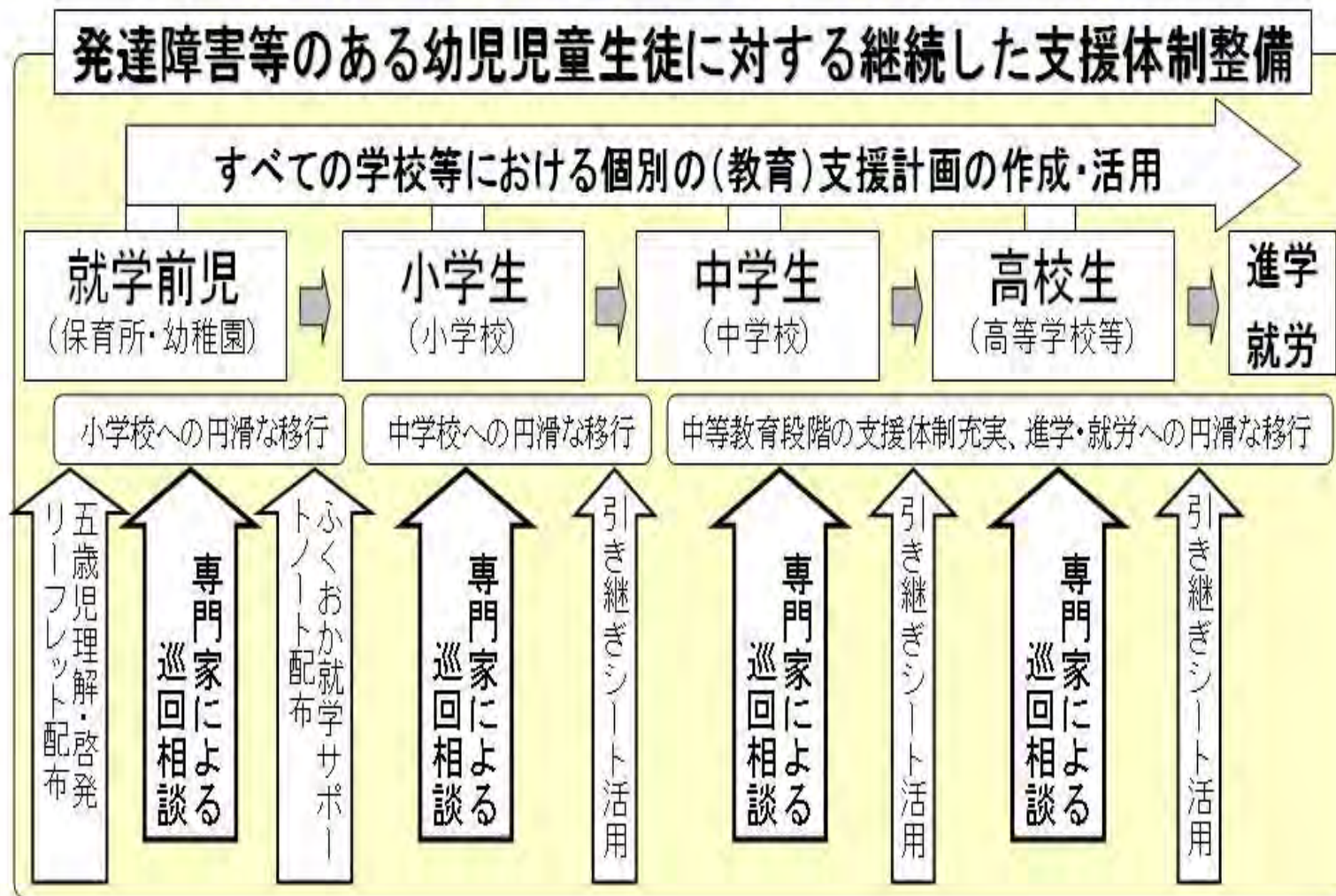
# 本日お話しすること

- 1 本県の考え方
- 2 就学前から中(高等)学校の引継ぎ  
(実践Ⅰ:久山町教育委員会)
- 3 中学校から高等学校の引継ぎ  
(実践Ⅱ:福岡県高校教育課)
- 4 成果と課題

# 本日お話しすること

- 1 **本県の考え方**
- 2 就学前から中(高等)学校の引継ぎ  
(実践Ⅰ:久山町教育委員会)
- 3 中学校から高等学校の引継ぎ  
(実践Ⅱ:福岡県高校教育課)
- 4 成果と課題

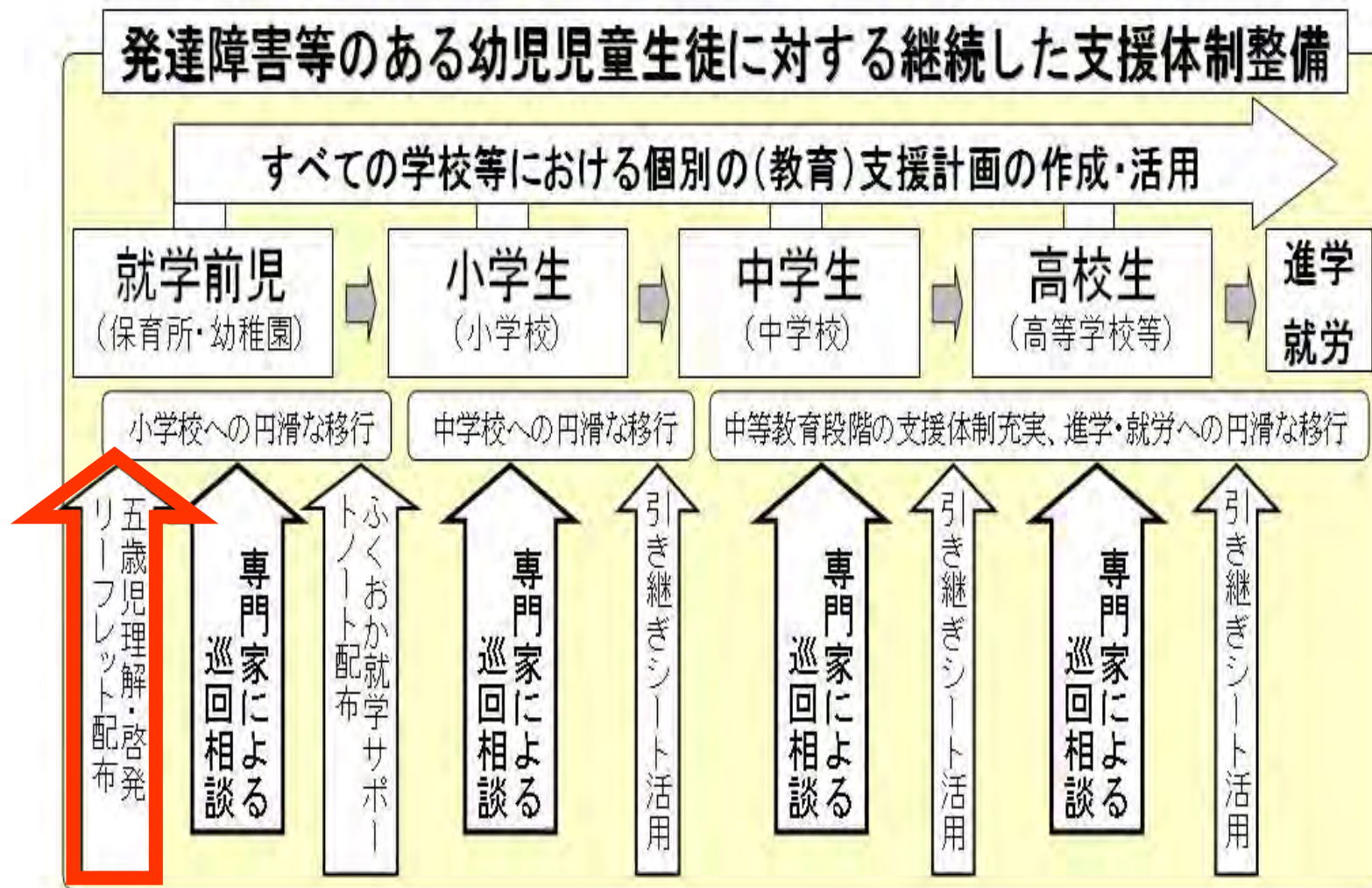
# 発達障害児等教育継続支援事業（事業イメージ図）



気づく ⇒ 具体化する ⇒ つなぐ



# 幼児児童生徒へのかかわりの視点 ①



困難さに気づく

# 就学前保護者へ「相談案内リーフレット」

## 気になることは、小学校へ伝えましょう！

充実した学校生活を送るために、お子さんの状態や適切な支援方法などを小学校へ伝えることが大切になります。小・中学校、高等学校では、一人一人のニーズに応じた教育をすすめています。

小学校へ  
伝えておくと…

(例)

新しい環境や初めての場所に行くとき不安になって、動けなくなることもあるので、学校生活のスタートが心配…



例えば、入学式会場の事前見学や当日のスケジュールを事前にもらうなど、見通しをもつための支援を受けることで、安心した学校生活をスタートさせることができます。



県域5歳児保護者

全家庭へ配布



# 高校入学者の保護者へ「相談案内リーフレット」

実は…

保護者のみなさまへ

## こんなことで困っていませんか？

2つ以上の作業を同時にこなそうとすると混乱してしまう。

特定のことにこだわり、興味が広がらない。

友だちとの関係の作り方が下手で、トラブルも多い。



漢字や英語のスペルがどうしても覚えられない。

プリントや配布物をよくなくしてしまう。

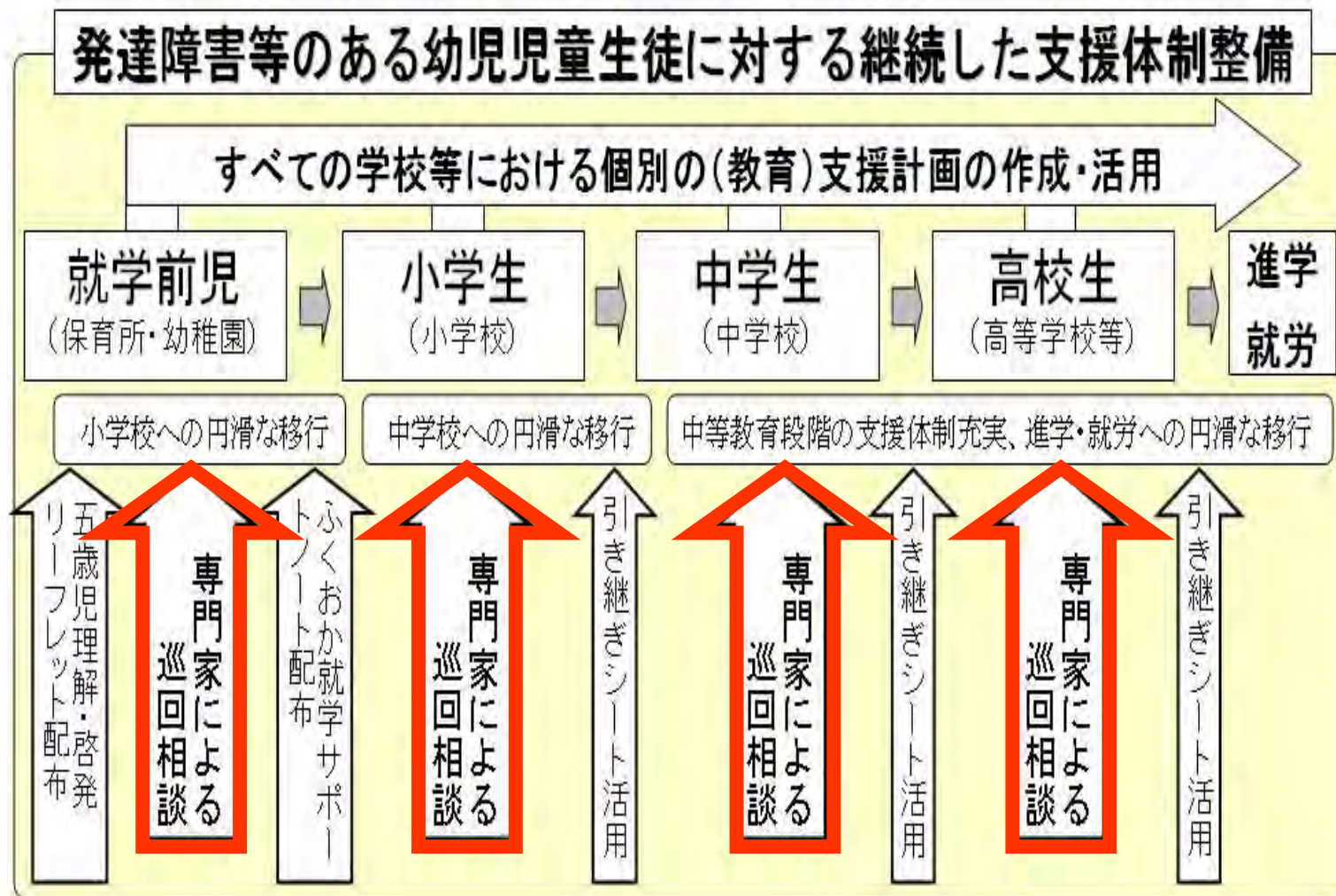
感情的になり、気持ちの切り替えが難しいことがある。

急に予定が変わると次に何をしようか分からなくなる。

高校生の中には、本人の努力だけでは解決できない学習や生活上の困難を抱えている生徒がいます。この中には

**県立高校新入生 全保護者へ配布**

## 幼児児童生徒へのかかわりの視点 ②



指導を具体化する



# ①通常学級において、担任等が「授業づくり」や「教室環境づくり」を工夫します



だれに取り組むか  
(対象の明確化)

何に取り組むか  
(課題の明確化)

何から取り組むか  
(優先順位の決定)

どう取り組むか  
(支援の具体化)

# ①-(1) どこに課題があるのか明らかにします

対象生徒氏名:【                      】 記入日:      年      月      日 記入者:

	チェック項目(教員の観察による生徒の姿)	チェック
学習上の 気付き	1 聞いたことがなかなか覚えられない。	<input checked="" type="checkbox"/>
	2 文字の弁別ができない。(あとお、シとツ、pとq、1とlなど。)	<input type="checkbox"/>
	3 行をとばしたり、読んでいる箇所が分からなくなったりする。	<input type="checkbox"/>
	4 内容の意味が理解できない。(指示の内容や文章の内容など。)	<input checked="" type="checkbox"/>
	5 集団場面での聞き取りが難しい。	<input checked="" type="checkbox"/>
	6 ざわざわした教室にいることが耐えられない。	<input type="checkbox"/>
	7 話し合いについていけない。	<input checked="" type="checkbox"/>
	8 図形の見取図や立体図をかくことが難しい。	<input type="checkbox"/>
	9 相手が聞いて分かるように話せない。	<input checked="" type="checkbox"/>
	10 経験したことを順序立てて話すことができない。	<input checked="" type="checkbox"/>
	11 ルールのある競技やゲームは苦手のようにみえる。	<input checked="" type="checkbox"/>
	12 判読しにくい乱雑な文字を書く。また、文章に書くと一文字一文字のバランスが極端に悪い。	<input type="checkbox"/>
	13 2つ以上の作業を同時にこなそうとすると混乱してしまう。	<input type="checkbox"/>
	14 的確な言葉を見つけられなかったり、つまったりすることが多い。	<input type="checkbox"/>
	15 漢字の一部を間違えて書く。(省略したり付加したりする。)	<input type="checkbox"/>
	16 黒板の文字を視写するのに時間がかかる。ノートがとれない。	<input type="checkbox"/>
	17 計算に時間がかかる。簡単な計算が暗算できない。	<input checked="" type="checkbox"/>

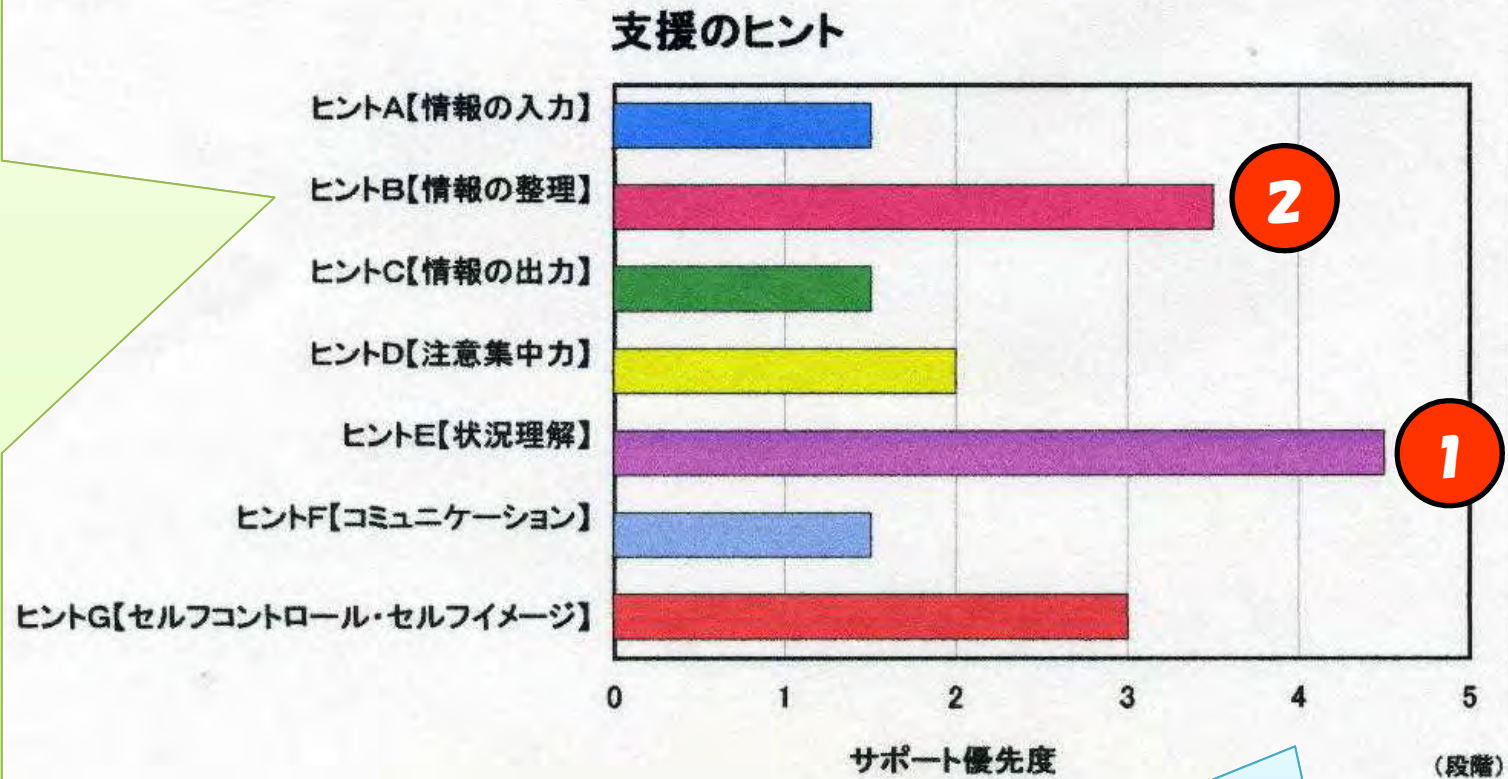
担任を中心に、同学年や近接学年・クラブや委員会担当者など多くの目で話し合いながら、気づきを整理します。

校内委員会における協議の過程で、当該児童生徒の課題(情報)が具体化・共有化できます。



# ①-(2) 対象児童生徒の課題の傾向性と解決の優先順位を明らかにします

一つひとつの課題を集約して、どこに集中して取り組むべきか課題の傾向を明らかにします。



横軸が「サポート優先度」、段階が高いほど課題解決の優先順位が高くなります。まず、何から取り組むべきかが明らかになります。



# ①-(3) 課題に応じた支援の方法を具体化します

## ヒントD【注意集中力】



### 【分析】

この項目について「サポート優先度」が高い生徒については、注意の集中や持続、注意記憶に課題があるのかもしれない。

### 【支援のヒント】

- ・注意の集中を促してから話しかける。
- ・指示や説明は、簡潔に行う。
- ・ルールや片付ける場所などは、視覚的に提示しておく。
- ・覚えておくべきことをメモする習慣を形成する。
- ・作業などの予定や終わり（時間や量）を事前に提示しておく。（タイマー等の活用）

## ヒントE【状況理解】



### 【分析】

この項目について「サポート優先度」が高い生徒については、状況の理解に課題があるのかもしれない。

### 【支援のヒント】

- ・ルールや指示などを視覚的に提示し、1つ1つことばで確認する。
- ・場面や状況、その時の気持ちなどを分かりやすいことばで伝える。
- ・ロールプレイを通じた対人関係についての学習の場を設定する。
- ・VTRを用いて、自分自身の行動や周囲の状況を振り返る時間を設定する。
- ・作業予定や終わり（時間や量）を事前に提示し、予定の変更は、事前に知らせる。

支援のヒントに書かれている内容から、実際に取り入れられるものを選択し、支援計画に明記します。

例「ルールや指示などを視覚的に提示し、1つ1つことばで確認する。」を授業で具体化すると…。

# ①-(4) 支援の具体を参考に「個別の指導計画」を作成します。

	D	E	F	G
	シンプル	クリア	ビジュアル	シェア
1 ⇒ 状況を理解し、見通しをもつための支援が必要				
2 ・活動場所や物の配置について見取り図や配置図等を示すことで大体の場所を知らせるとともに、本人が途中で確認できるようにする。		○	○	
3 ・片付ける場所は一つの場所に種類のを対応させる。	○			
4 ・ロッカーを利用して、机の中の荷物を最小限にする。	○			
5 ・机の横には荷物をかけないようにする	○			
6 ・座席の位置を工夫する。(モデルになる子をペアにし、近くにする。)				○
7 ・ルールや指示、今からやること等をキーワードにして伝える。	○			
8 ・ルールや指示、今からやること等を視覚的に提示する。			○	
9 ・活動ごとにルールを確認させたり、児童生徒に復唱させたりする。		○		
10 ・活動の内容や方法、時間、場所等を児童生徒同士で確認させる。		○		○
11 ・活動内容・方法について、手順表や活動表、活動モデル、完成品等を示すことで予告するとともに、途中で確認できるようにする。		○	○	
12 ・活動時間について、手順表や活動表、開始・終了時刻、時間(時計)等を示すことで予告するとともに、途中で確認できるようにする。		○	○	
13 ・ルールや指示等をメモにして渡し、机の見えるところに置かせる。				
14 ・「今から2つの話をします」「今から持ってくるものを言います」のように結論や要点を先に伝える。				
15 ・児童生徒の経験や馴染みのある事例をあげたりたとえたりしてイメージ化(映像化)しやすくする。				

配慮事項をクリックすると参考写真等の具体列による説明が出来ます。



# 専門家の助言による最適な指導をめざして

平成27年度学校種別「巡回相談」活用件数

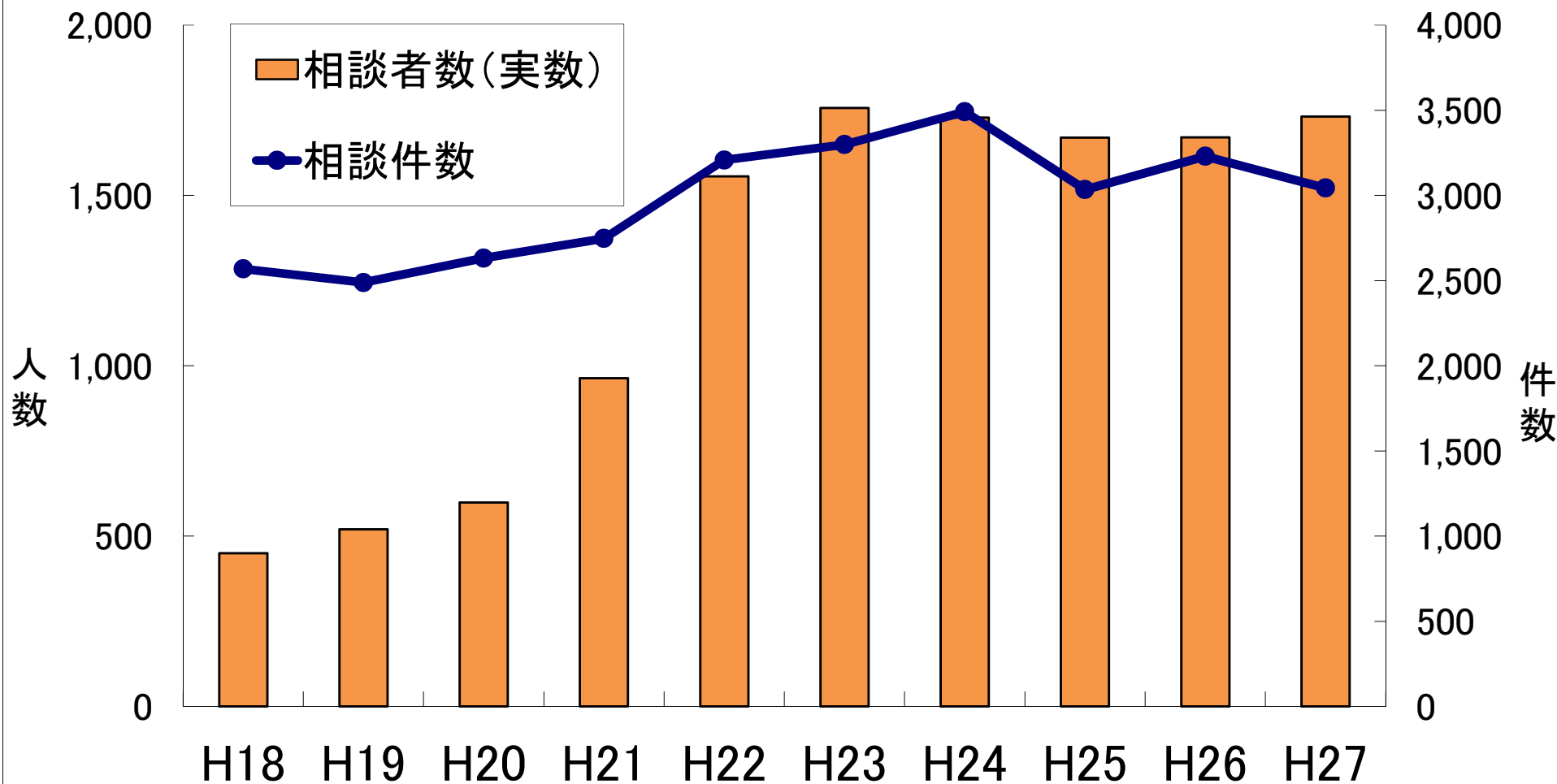
学校種	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
相談件数	17	43	339	74	21	<b>494</b>

協会委託により私立学校・園にも派遣<sup>14</sup>



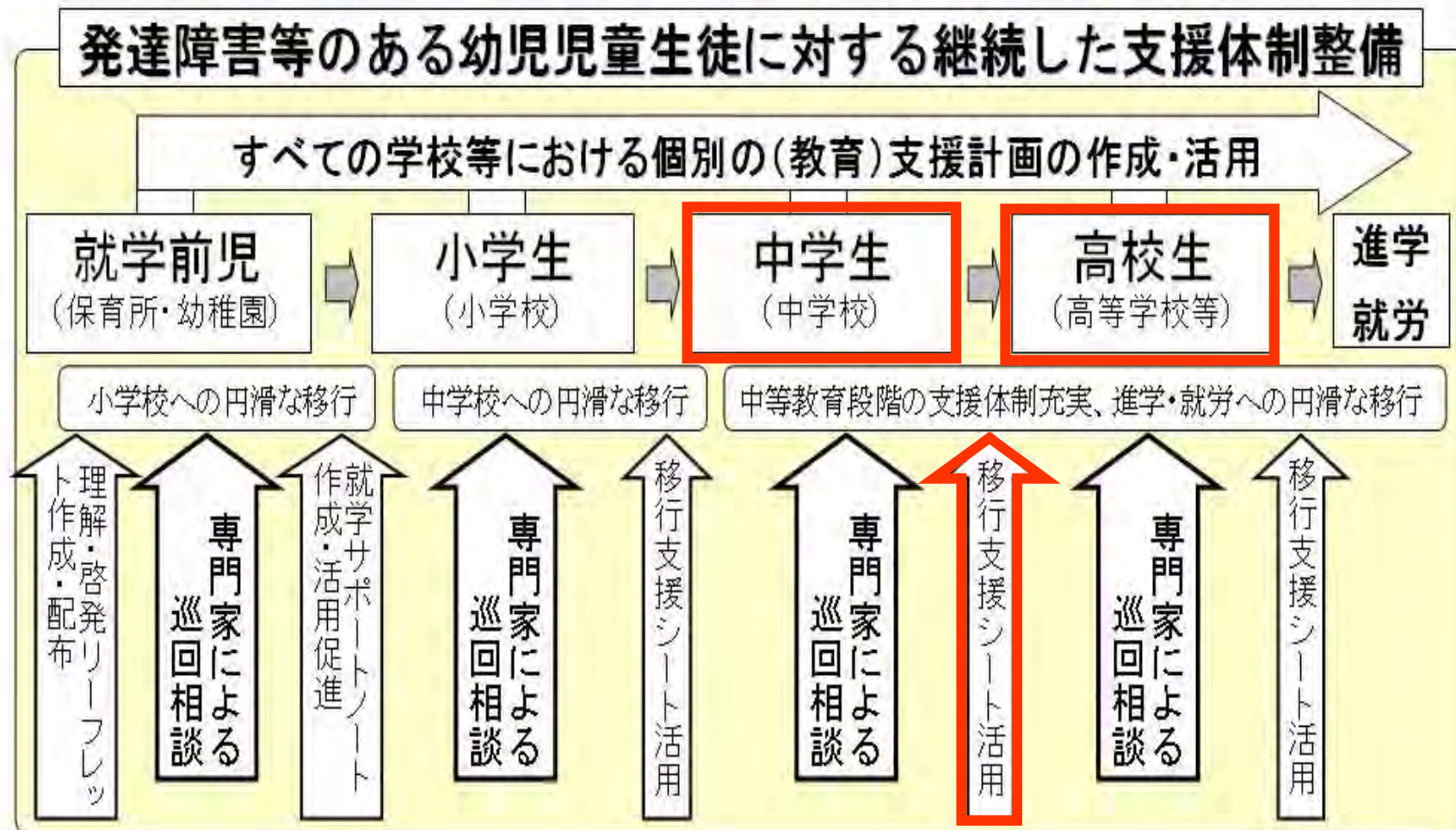
# センター的機能を活用して指導を具体化するために

## 県立特別支援学校における教育相談の推移



子ども理解・授業づくり・環境づくりの助言

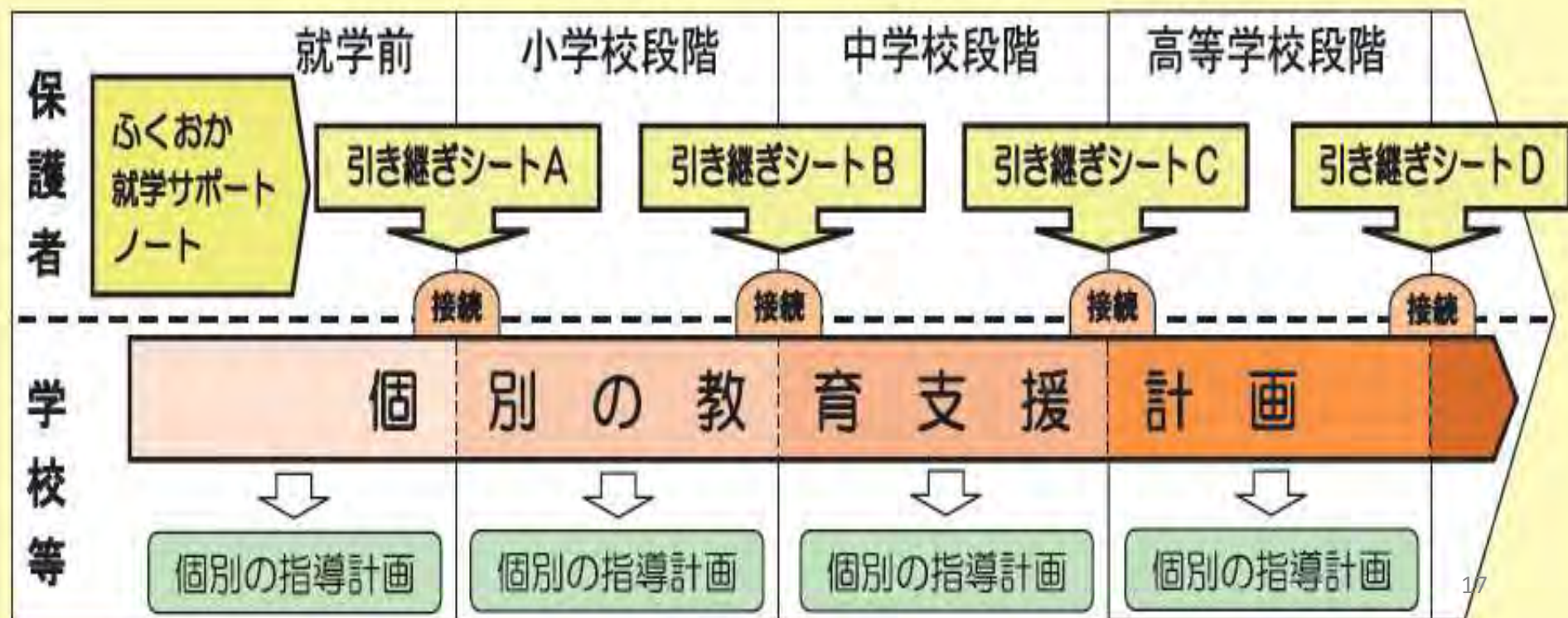
# 幼児児童生徒へのかかわりの視点 ③



指導の成果をつなぐ

一貫した継続性のある支援を充実するために

ふくおか就学サポートノートを活用しましょう！





サポートノートは入学・卒業時を中心に  
個別の教育支援計画・指導計画と関連づけて活用します

## 引き継ぎシートC

〔中学校 → 高等学校・特別支援学校〕

このシートは、お子さんに必要な支援内容・方法などについて進学先の学校に伝える際に活用するものです。

シートの記入や進学先の学校への引き継ぎに際しては、中学校の先生方に協力してもらうことが大切です。

## 引き継ぎシートD

〔高等学校 → 進学・就職先等〕

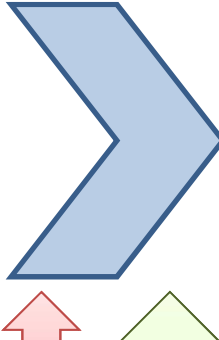
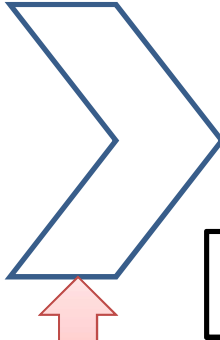
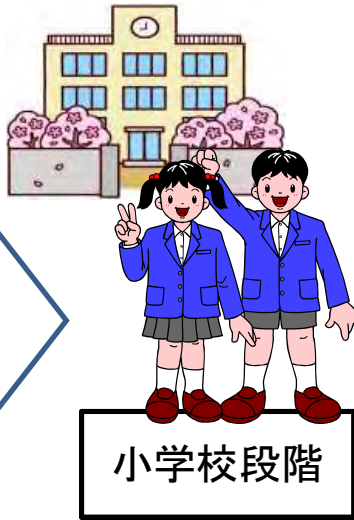
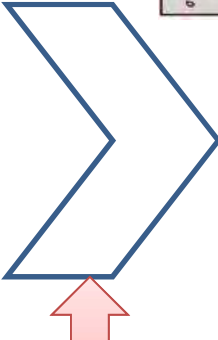
このシートは、お子さんに必要な支援内容・方法などについて進学・就職先等に伝える際に活用するものです。

シートの記入や進学・就職先等への引き継ぎに際しては、高等学校の先生方に協力してもらうことが大切です。

県域の幼・保、小、中、高を通して必要な  
家庭に配布し、学校と家庭で協力して作成

# 本県における「系統性のある支援研究事業」の考え方

## 研究事業①② の分担



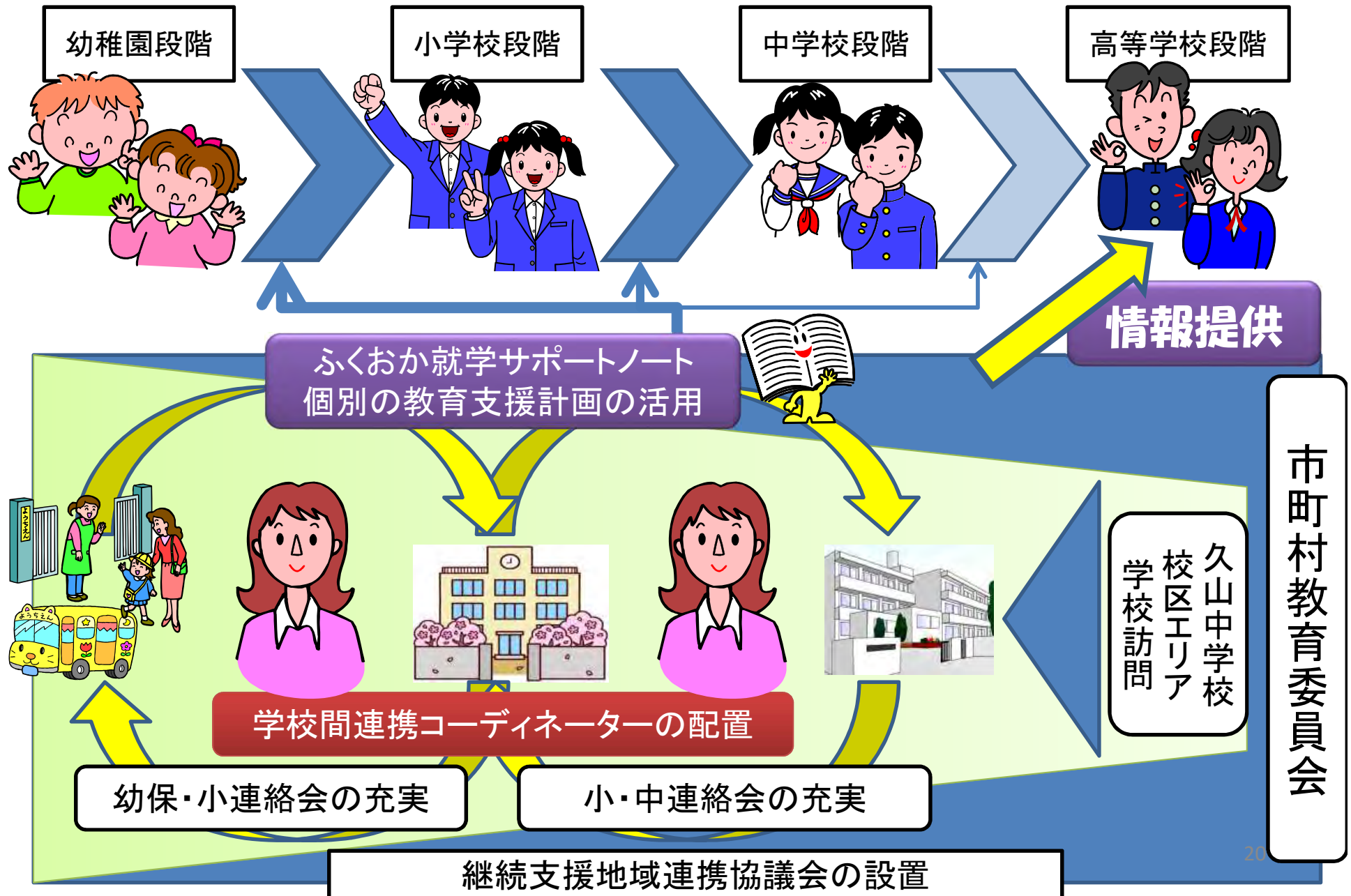
系統性のある支援研究事業①

義務教育課主管：久山町教育委員会（指定地域）

系統性のある支援  
研究事業②

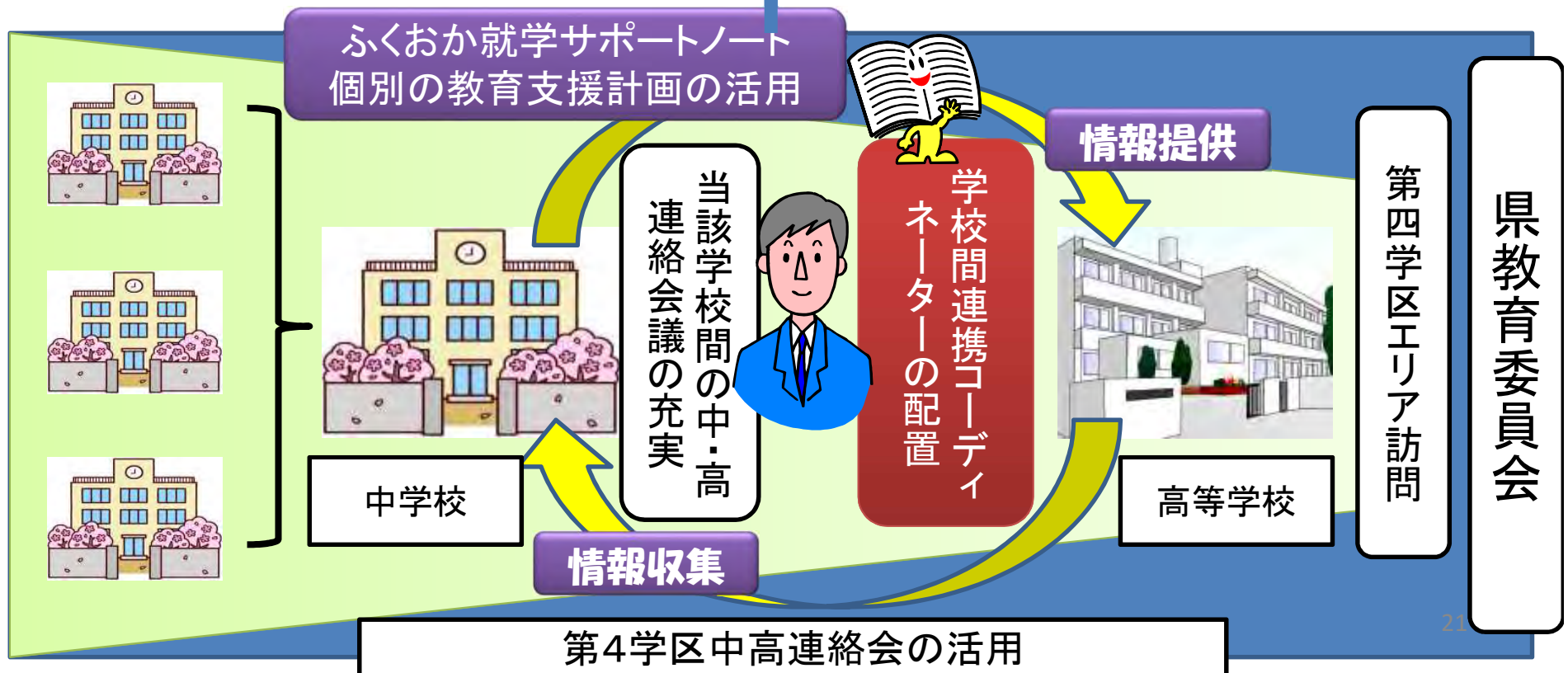
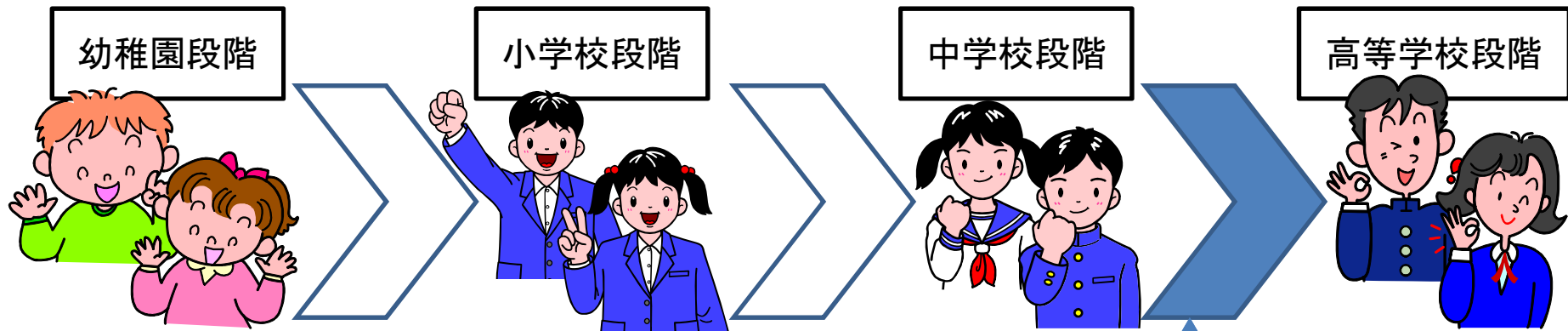
高校教育課主管：第4学区（指定学区）

# 実践Ⅰ 幼保・小・中学校の取組（久山町教育委員会）





# 実践Ⅱ：高等学校の取組（高等学校第4学区）



# 一貫した継続性のある支援【異学校種間の連携 例）中・高間連携】

入学(前)後  
(10月～3月)

入学後  
(4～9月)

校内

校内

情報提供

情報収集

中学校

高等学校

合意形成

学校適応

家庭

中高連絡会の充実・教員訪問

- 生徒観察
- 教育相談
- ふくおか就学サポートノート作成依頼
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画作成援助

- 生徒観察
- 教育相談
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画作成援助
- 入学時ガイダンス等の支援

ふくおか就学サポートノート  
個別の教育支援計画の活用

委託

文部  
科学省

福岡県教育委員会

福岡県発達障害者支援体制整備検討委員会(県特別支援連携協議会)

義務教育課(特別支援教育室)

高校教育課

再委託

久山町教育委員会(指定地域)

久山町継続支援研究地域運営協議会

他市町  
立  
第四学区  
内  
中学校

高等学校

第4学区  
(指定学区)

保育園  
幼稚園

小学校

中学校

- 久山町継続支援研究地域運営協議会の開催
- 学校間連携コーディネーター(久山町配置)の配置
- 巡回相談(臨床心理士)の実施
- ふくおか就学サポートノートの活用
- 個別の教育支援計画・指導計画の作成

- 学校間連携コーディネーター(福岡県配置)の配置
- ふくおか就学サポートノートの活用
- 個別の教育支援計画・指導計画の作成



委託

文部  
科学省

福岡県教育委員会

福岡県発達障害者支援体制整備検討委員会(県特別支援連携協議会)

義務教育課(特別支援教育室)

再委託

久山町教育委員会(指定地域)

久山町継続支援研究地域運営協議会

保育園  
幼稚園

小学校

中学校

高校教育課

他市町  
村立  
中学校

高等学校

第4学区  
(指定学区)

- 久山町継続支援研究地域運営協議会の開催
- 学校間連携コーディネーター(久山町配置)の配置
- 巡回相談(臨床心理士)の実施
- ふくおか就学サポートノートの活用
- 個別の教育支援計画・指導計画の作成

- 学校間連携コーディネーター(福岡県配置)の配置
- ふくおか就学サポートノートの活用
- 個別の教育支援計画・指導計画の作成

# 本日お話しすること

- 1 本県の考え方
- 2 就学前から中(高等)学校の引継ぎ  
(実践Ⅰ:久山町教育委員会)
- 3 中学校から高等学校の引継ぎ  
(実践Ⅱ:福岡県高校教育課)
- 4 成果と課題

# 久山町の実態



配慮を要する園児・児童・生徒が年々増加



久原小学校 (353名)



山田小学校 (253名)



久原幼稚園 (70名)



山田幼稚園 (57名)



久山保育所 (133名)



# 久山町の取組

発達障害の可能性のある児童生徒等に対する継続支援事業  
系統性のある支援研究事業

## 久山町における具体的方策

### ① 学校間連携コーディネーターの複数配置及び活用

コーディネーター A (3名) ※九州大学大学院生

コーディネーター B (1名) ※特別支援学校元校長

### ② チェックシート、支援シートの開発及び活用

担任の気づきをもとに児童生徒の困難さを推測

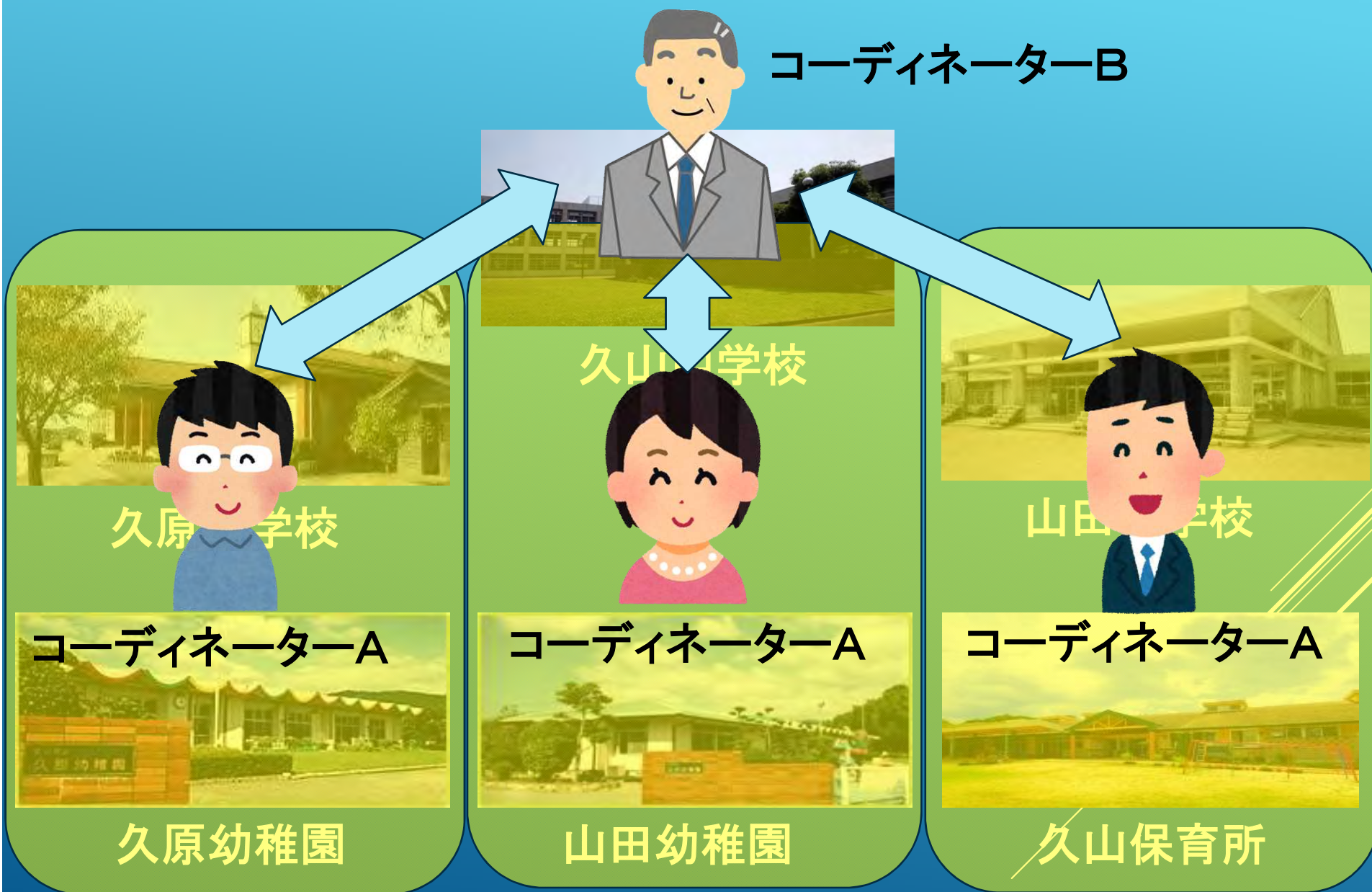
困難さをもつ児童生徒への適切な支援を行う

### ③ 久山町継続支援地域連携協議会での共通理解

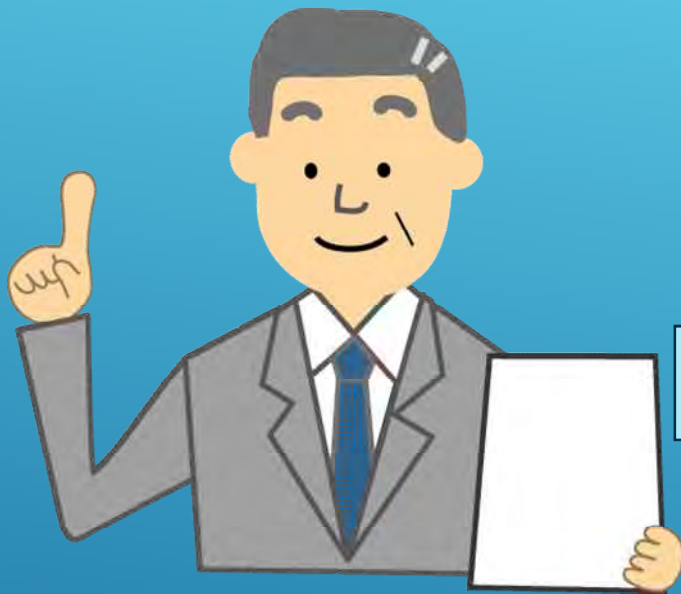
保幼園長、小中校長、特支コーディネーター等で組織

継続支援に関する内容、方法、時期等について検討協議

# ① 学校間連携コーディネーターの複数配置及び活用



# 久山町の取組



コーディネーターB

情報提供



進学先高校等



保護者、本人と相談



校内で協議